

行政調査報告書「産業建設常任委員会」

令和5年7月5日～7日

■静岡県藤枝市 『民間活力導入による中心市街地のまちづくりについて』

市立総合病院が駅周辺から移転した後、その跡地を市が民間事業者に貸し、事業者が建物を設置・運営し、市がそのフロアを借りて図書館を運営する取組のほか、人口減少と超高齢化社会に対応すべく、民間活力を導入したハード事業とソフト事業を市が支援することにより、スピード感をもってコンパクトシティ化を目指している。第4期まで継続しているこの中心市街地活性化計画の取組は、本市として参考になるものであった。



■オガール企画合同会社（岩手県紫波郡紫波町） 『オガールプロジェクトについて』



新駅の開業に合わせて再開発のために町が取得した土地について、市の財政負担を最小限に抑えるべく、民間による複合施設の開発を推し進めることになり、紫波町公民連携基本計画に基づき、紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）が実施された。行政単独ではなしえない公民連携ならではの手法により、採算性や効率性だけでなく、循環型社会の構築にもつながる地方再生の

成功例となったこの取組は、本市として参考になるものであった。

■神奈川県横須賀市 『長井海の手公園（ソレイユの丘）について』

全国初のPFI事業により公園が造成された後、旧軍用地が市に贈与されたことにより公園を拡幅し、今年度には新しい指定管理者のもとPark-PFI制度を導入してリニューアルオープンした公園である。アスレチック設備やグランピング設備などの集客力のある施設となっており、多様な市民ニーズを受け止めるために柔軟かつ収益力のある施設を目指す運営の在り方は、本市の公園の今後を考える上で、参考にしたいところが多くある調査となった。

